



三滝だより

NO. 252

2021年(令和3年)3月15日発行

はる けはい 春の気配



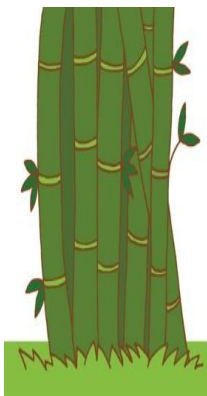
冬の寒さも和らぎ、少しずつ春の気配が感じられるようになってきました。春といえば梅や桜、つくしなどがありますが、今回は竹の魅力について紹介したいと思います。

竹の魅力



軽くてしなやかなで加工がしやすい竹は、カゴやザルなどの日用品のほか、和の文化である茶道の道具にも利用されており、日本人にとって古の時代より身近な資源として利用されてきました。また、発明王のトーマス・エジソンにより、世界で初めて発明された電球の発光体(フィラメント)にも竹が使われていました。

竹は笹と同じ仲間で、世界で1,400種類以上のほります。毎年、地下茎の節にあたる芽子から新しい竹を発生させ、数か月で高さ20m、直径15~20cmにまで成長します。1日で1m以上伸びた記録もあり、その成長スピードは驚くばかりです!



日本で主に利用されている3種類の竹の1つ

で、モウソウチク(孟宗竹)と呼ばれる竹は、食卓に春の訪れを感じさせてくれるだけのことして使われることが多いようです。



じぞくかろう かつよう 持続可能な竹の活用



このように便利で食べても美味しい竹ですが、輸入品の増加やプラスチック製品の普及により国内の生産量は著しく減少しました。また、生産者が高齢化してきたこともあり、竹林は次第に放置されるようになりまし。三滝の山も例外ではなく、竹林の伐採等の手入れがされなくなることから、竹林が拡大してしまい、元の森の植生が衰退し、森林機能に支障が生じていることが大きな課題となっています。

こうしたことから、竹を利用することで竹林・森林整備への関心を高めることが解決の方法と考えられます。そのため、現在では竹を繊維として作られたタオルや竹由来の洗濯洗剤等が製品化されています。

将来の更なる利用拡大に向けて、竹林の整備と竹の利用が持続可能となる仕組みづくりを行うことで有用な竹が再び広く生活に利用されるようになるといいですね。





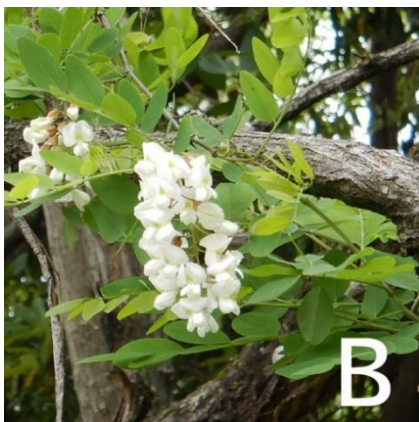
ニセアカシア

2020年の春のことです。あるパン屋さんが『アカシアはちみつ使用』という菓子パンを発売しました。袋に黄色い花のアカシアのイラストが描かれていたのですが、養蜂家(蜂を飼ってハチミツをとる仕事をしている人)であるお客さんから「そのアカシアの花からは、ハチミツはとれないよ!」とメールが来たそうです。

パン屋さんがぐわしく調べてみたところ、ハチミツがとれるのは白い花のアカシアであることがわかり、袋のイラストを急いで白い花に直した、というのがニュースになりましたが、知っていますか?



どうしてアカシアの花から“アカシアはちみつ”がとれないの?



まずは写真Aを見てみましょう。最初のイラストの花はこちらです。黄色いポンポンのようでかわいらしいですね。名前は「ギンヨウアカシア」。3月ごろ、春のおとずれとともに花が咲きはじめます。

この植物が「アカシア」なのですが、「ミモザ」という名前が親しまれています。ギンヨウアカシアやフサアカシアなど、ブドウのふさのような形で黄色い花を付ける植物をまとめて、「ミモザ」と呼んでいます。

次の写真Bが、アカシアはちみつがとれる植物です。真っ白なブドウみたいですね。ギンヨウアカシアと花の付きかたは似ていますが、さっきの葉っぱはギザギザで、こっちの葉っぱは卵型。ぱっと見たところ同じアカシアには見えません。それもそのはず、名前は「ニセアカシア」! 言葉のとおり、アカシアではないのです。

でも、この花からとれたハチミツはアカシアはちみつ。なぜこんなややこしい事になってしまったのでしょうか?

日本においてニセアカシアがなぜ“アカシア”と呼ばれるのか



※個人の想像です

ニセだけど、事実上アカシアになっちゃった!?

ナゾの答えはおおよそ150年前、明治時代までさかのぼります。

ニセアカシアは、明治初期に遠く西洋から伝わってきました。その際、「アカシア」と登録されました。しかし何年かたって、本当のアカシアは別にある事がわかりました。そう、「ミモザ」です。

そこで「アカシア」から、正しくは「ニセアカシア」に登録しなおしたのですが、そのころにはすでに街の並木や山の緑化に使用されており、庶民の間ですっかり「アカシア」という名前が広まってしまっていたと言われています。

そうして日本国民の生活にアカシアとして入ってきたニセアカシア。例えば歌の詞に登場するアカシアについても、実はニセアカシアであると考えられています。昭和を代表する歌謡曲『アカシアの雨がやむとき』(調べて聴いてみてね!)の”アカシアの雨”というのは、いっぱい咲いたニセアカシアの白い花びらが、まるで雨のように美しく散るようすを表しているのだそうです。

そういった歴史があつて、なんだか本物なのかニセモノなのかわからなくなってしまいそうな「ニセアカシア」ですが、ニセアカシアだけでなく、このような植物の名前の不思議は他にもたくさんあるので、ぜひ調べてみてください。とっても面白いですよ!

三滝少年自然の家のアカシアも、梅雨のころにきれいに咲くでしょう。ぜひ見に来てくださいね!



Instagram Follow me!

公益財団法人広島市文化財団 広島市三滝少年自然の家・広島市グリーンスポーツセンター
〒733-0802 広島市西区三滝本町一丁目73番地の20
TEL082-238-6301 FAX082-238-6302 <http://www.cf.city.hiroshima.jp/mitaki-c/>